

令和5年度 西東京市立けやき小学校 学校評価報告書

学校教育目標	確かな一歩	<ul style="list-style-type: none"> ・自らすすんで学び続ける子(自らすすんで学習し、課題解決に向けて粘り強く取り組む児童)学びに向かう力 ・思いやりのある子(自分を大切にし、他の人も思いやる児童)人間関係力 ・明るく元気な子(規則正しく生活し、たくましく健やかな児童)健康・体力
---------------	-------	---

目指す学校像(ビジョン)		
【目指す学校像】	・地域とともにある学校	
【育てたい児童像】	・自らすすんで学び続ける子(自らすすんで学習し、課題解決に向けて粘り強く取り組む児童)学びに向かう力 ・思いやりのある子(自分を大切にし、他の人も思いやる児童)人間関係力 ・明るく元気な子(規則正しく生活し、たくましく健やかな児童)健康・体力	
【求める教師像】	・法令を順守する教師 ・「あったか先生」としての教師	

前年度までの学校経営上の成果と課題 (成果) 新型コロナウイルス感染症防止対策を取りながら学校行事等の教育活動を見直すことができたこと。(課題) 人材の育成と保護者及び地域に教育活動を発信し、理解・啓発を更に図ること。

	具体的方策	第1回評価		課題と対策	第2回評価		学校関係者評価	課題と次年度以降の対策
		努力目標(教職員)	成果目標(保護者)		努力目標(教職員)	成果目標(保護者)		
学びに向かう力の育成	・授業におけるユニバーサル・デザイン化を図り、児童にとってわかりやすい授業を実施する。	4	3	「わかりやすく学びのある授業が行われている」と肯定的に評価する保護者がおよそ9割であった。高い評価を得ていると考えられる。今後も確かな学力を保障していけるよう授業研究を推進し、ユニバーサル・デザインの工夫を通したわかりやすい授業をすすめていく。	4	3	・全国学力調査の結果からも、けやき小は学力向上に向けてよくやっていることがわかる。 ・学力調査アンケートで「算数の授業の内容がどちらかといえば分からない・ほとんどわからない」(十数%)と回答した児童を育てていくことが大切。 ・ICTは機器を活用し、活用方法を共有することで、どのような意味や有効性があるのか、先生方間で共有・明確化することが大切である。	「わかりやすく学びのある授業が行われている」という項目において、肯定的な保護者の回答は年平均85%であった。学校は日々の授業や校内研究を通して、教員は授業を効果的に組み立てること、教材・資料を工夫することができた。一方で、個々の児童の困り感に応じた指導を、全体指導とのバランスをとりながら実施することが今後の課題である。次年度も授業研究に一層力を入れ、さらに個々の児童の困り感に応じた指導の工夫を心掛けていく。
	・学習でデジタル教科書やタブレット等のICT機器を適切に活用する。	2	1	「デジタル教科書やタブレット等のICT機器が有効に使われている」と肯定的な回答の保護者は6割未満、「わからない」と回答した保護者が3割であった。授業でのタブレット等の活用場面は増え児童の活用力も高まってきているが、教員側の活用は十分とは言えない。ICT機器の活用を校内研修で行ったり、今後の授業参観でICTを活用したりし、保護者の理解を得られるよう努める。	3	1	・ICTは機器を活用し、活用方法を共有することで、どのような意味や有効性があるのか、先生方間で共有・明確化することが大切である。	「デジタル教科書やタブレット等のICT機器が有効に使われている」という項目において、肯定的な保護者の回答は年平均56%、「わからない」と回答した保護者が30%であった。学校ではタブレットの活用については、教員、児童、共に習熟が進んでいるが、タブレットを効果的に使って学習する姿が保護者に伝わっていないことが課題である。次年度は、授業参観に活用場面を積極的に設定したり、各教員が活用の様子を紹介したりしていく。また、校内研究とも関連付けて教員間で学び合いを活性化していく。
	・児童が読書に親しんだり、読書習慣を身に付けたりできるよう指導を工夫する。	1	1	「子どもが読書習慣を身につける指導が行われている」と肯定的に捉える保護者がおよそ68%、「分からない」と回答した保護者が15%であった。学校では、学校司書、司書教諭、図書委員が中心となって読書活動を推進しており、児童の読書への関心も高まってきている。今後、家庭学習に読書を取り入れ、読書活動を家庭に伝えたり、保護者の理解を得られるよう努める。	2	1	・学校図書館に校長先生のおすすめの本が置かれていたり、先生の推薦図書のコーナーがあったりしてよかった。もう少し高く評価してもよいのではないかと。	「子どもが読書習慣を身につける指導が行われている」という項目において、肯定的な保護者の回答が年平均66%であり、家庭での読書量が少ないという保護者の声もある。学校では読書への関心が高まりつつあるが、家庭での読書が課題の一つである。次年度も、司書教諭、学校司書、図書委員が読書週間を中心に、地域協力者と連携を図りながら、読書イベントを展開する。また、継続して多読賞を賞し、児童の読書への意欲・関心を高めていく。さらに、児童の豊かな読書活動が家庭にも浸透していくよう、長期休業中の宿題として、親子読書(親子で同じ本を読み、両者の感想をカードに書く)に取り組むことを検討する。
	・家庭学習の習慣を付けられるよう、保護者と連携を図ると共に学習の取り組み方の定着を図る。	2	2	「家庭学習の習慣が身に付いてきている」と肯定的に捉えている保護者は8割程度であり、2割の保護者は否定的である。保護者会等の機会を通して、家庭学習の内容や意義について保護者と共有し、児童の学力の向上において連携していく。	3	2	・読書の習慣を付けさせるには家庭も大切。小さい時からの読み聞かせも大事にしたい。	「家庭学習の習慣が身に付いていない」と捉えている保護者は年平均21%であり、2割の児童が家庭学習の習慣が身に付いていないことが課題である。次年度は、宿題の量や方法が児童にとって適切となり家庭学習への意欲につながるよう、学年・学校単位で検討を進めていく。また、保護者と連携した支援が図られるよう、保護者会や個人面談等の際に、家庭学習・宿題の目的、内容等についてコミュニケーションを深めていく。
人間関係力の育成	・「西東京市子ども条例」や学校いじめ防止基本方針に基づき、いじめ防止に取り組む。	4	1	「西東京市子ども条例」や学校いじめ防止基本方針についての保護者への周知の仕方に課題がある。年度始めの保護者会で学校いじめ防止基本方針を説明したり、いじめ防止の取組をお知らせしたりしていく。また、保護者の相談には丁寧かつ迅速に対応し、いじめの早期対応を心掛ける。	4	1	・児童館や学童でけやき小の子どもたちを見ていて、人を傷つける言葉を言わないように気を付けている児童が多い。 ・SNSなどについて、学校では全体に指導できても個別に指導は、情報が入ってからとなる。大人に見せられないものはやらせないというスタンスをもちたい。セルフコントロールができない時は、まだつかわせないようにしたい。	「いじめや人権問題に対する指導が行われている。」の項目に対し、「わからない」という保護者の回答は年平均33%と高いことが課題である。次年度は、年度始めの保護者会で学校いじめ防止基本方針を配布し説明する。また、6月・11月・2月の年3回のふれあい月間では、その月の始めにメールでふれあい月間について配信したり、いじめに関する授業の様子等を学級便りやHPなどに掲載したりし、取組を共有していく。
	・学校では決まりにそったけじめある生活が送れるよう指導していく。	3	4	「けじめのある生活」において、保護者の肯定的な回答は96%と高い評価であった。おおむね学校ではけじめのある生活が送れているが、全校朝会で、けやき小のきまりや月ごとの目標を示して意識させたり、週1回は振り返りを行う機会を意図的に設定していく。	3	3	・困った時大人に相談できるとよい。 ・挨拶で「場に応じた」という言葉が分りにくい。全体として挨拶はできている。	「けじめのある生活」において、保護者の肯定的な回答は年平均96%と高い評価である。しかし、休み時間後の授業の予鈴が鳴ってもまだ遊んでいる児童がいるなど、時間の意識に少し課題がある。次年度も、その都度声掛けをしたり、良い行動は帰りの会で紹介するなど賞賛したりしていく。
	・場に応じた気持ちのよい挨拶ができるよう挨拶を励行する。	1	3	教職員の課題として「場に応じた挨拶」の指導の不十分さがあげられる。しかし、「場に応じた気持ちのよい挨拶」において、保護者の肯定的な回答は84%であった。全体として挨拶ができる児童が増えてきている。引き続き、道徳や学級活動で挨拶の大切さを子どもたちに考えさせ、実践していく。	1	3		「場に応じた気持ちのよい挨拶」において、保護者の肯定的な回答は年平均82%であった。保護者からは肯定的な評価を得ているが、教職員の認識ではまだ児童の挨拶が不十分と受け止めている。すすんで挨拶を行う児童の育成が課題である。次年度も、大人が規範となって挨拶が増えるよう家庭・地域と連携していく。
健康の育・体力	・家庭と連携しながら「早寝・早起き・朝ごはん」など基本的な生活習慣の定着を図ったり、運動の習慣の定着を図ったりできるよう工夫していく。	4	2	「体力テスト」の結果から、持久力、投げる力が全体的に低いことが課題である。運動週間や体育科の学習を通して、運動の習慣化、体力向上を図っていく。また、「生活リズムカード」を活用して、基本的な生活習慣の意義付けをしていく。保健だより、給食だより、3年生以上は体育科保健の学習を活用する。	4	2	・「健康・体力の育成」は、学校ががんばっているが、保護者に伝わっていない。 ・家で運動習慣は難しい。学校での運動の教え合いがよい。	「子どもの健康や体力推進のための取組みが行われている」という項目において、保護者からの肯定的な回答は年平均78%であった。次年度も、年間を通した運動(長縄)週間を継続したり、短縄・持久走を体育科学習の導入で継続して取り組んだりするようにしていく。また、学習カードを休み時間や家庭などでも活用し、運動の日常化を図る。また、体力向上に繋がるゲストティーチャーによる出前授業など、様々な運動に触れる機会を設け、啓発する。
	信頼される学校	・教職員は話す声のトーンを落としたり、聴くことを大切にしたりする指導を行うことで、学校全体として落ち着いた雰囲気となるよう努める。	3	3	「学校は全体として落ち着いたいて、好ましい印象を受ける」という項目において、保護者からの肯定的な回答は84%であった。今後も、教育活動において聴くことを大切にす指導を全教職員で継続して行っていく。	3	3	・学校運営協議会の前、毎回授業参観をさせてもらうが、いつも落ち着いて学習している。楽しく学習している。
・施設や設備の安全対策や事故防止を適切に行う。		4	2	「施設・設備の安全対策や事故防止に取り組んでいる。」という項目において、肯定的な回答は8割弱であった。課題は「わからない」が20%という点である。学校で行っている安全対策や事故防止のための取組をHPなどでわかりやすく保護者に伝えていく。	4	2	・児童館で、ちょっとした時間に「けやき小のよいところを発表して」と言うと、子どもたちがたくさん発表してくれた。学校のよさがよく伝わった。	「施設・設備の安全対策や事故防止に取り組んでいる。」という項目において、保護者からの否定的な回答は年平均4%であった。しかし、「わからない」という回答が年平均20%あり、学校で行っている安全対策や事故防止のための取組が十分伝わっていないことが課題である。次年度は学校通信やHPで具体的な取組の配信を多く行い、保護者に伝えていく。
・教職員は丁寧に対応し、誠実に相談等に応じるよう心掛ける。		4	4	「教職員の対応は丁寧で、相談等に応じている」という項目においては、保護者の93%が肯定的な回答であった。また、全教職員の肯定的な回答は100%であった。今後も引き続き、丁寧に対応したり誠実に応じることを心掛けていく。	4	4	・教職員の対応があたたかい。 ・けやき小はHPの更新やメール配信がよくされていて、学校のことがわかりやすい。	「教職員の対応は丁寧で、相談等に応じている」という項目においては、保護者からの肯定的な回答は年平均94%であった。また、全教職員の肯定的な回答は年間100%であった。次年度も「あったか先生」として地域・保護者に信頼される教職員を目指し、誠実に応じることを心掛けていく。
・教育方針や日常の様子等、適切に情報発信をしていく。		4	3	「必要な情報発信がなされている」の項目においては、保護者の82%が肯定的な回答であった。また、教職員の97%が肯定的な回答であった。引き続き、学校・学級通信やHP、メール等を活用しながら、必要な情報をタイムリーに配信していくことを心掛けていく。	4	3	・体育発表会のアンケートに対し、具体的な回答があり、すごいと思った。保護者の声によく答えてくれた。	「必要な情報発信がなされている」の項目においては、保護者からの肯定的な回答は年平均80%であった。また、今年後は半数以上のクラスで学級通信を配信したり、図書や給食、保健室等からもお便りを配信したりした。次年度も、学校・学級通信やHP、メール等を活用しながら、必要な情報を配信し、教育方針や日常の様子等、適切に情報発信をしていくことを心掛けていく。